

今回のかんわケアPressでは、緩和ケア病棟で ボランティアを務めてくださっている方を紹介します。

池永静治さんは、3度に渡る脳出血のため左片麻痺がありますが、改造した車を運転し、電動車椅子を使い、趣味の写真や陶芸、園芸など積極的に活動されていて、お一人で海外にも行かれるほどのアクティブ派。雑誌などでもよく紹介されています。当院へは2003年の開設以来、ボランティアとして毎週来て下さり、陶芸、季節の写真撮影、ウッドデッキの園芸など多方面で活動してくださっています。



最初の脳出血を起こした53歳以来、3回発症をしましたが、いつの間にか76才の高齢者です。酒を飲まない、たばこも吸わない、脳卒中には有害な塩分もわずか1日約6gしか許されない、これでは味気がありません。障害者手帳1級、要介護2、独居生活23年です。

仕事が趣味のような生活から、突然、障害者人生に。10年くらい前、千鳥橋病院に入院中に読んだ本の中に、人は誰でも「生涯に一冊の本を書くことができる」とありました。自分の生い立ちから命の終わりまでの出来事や思考を書けばよいと。65才のとき、自分史を書こうと思いました。しかし、過去はともかく、これからの多忙な余命は何がどう変わるのかわかりません。命拾いは数回繰り返したけれど、まだまだ自分史を残すのは早すぎると考え、先延ばしにしました。「三つ子の魂百まで」、終戦の年が3歳、当時故郷の田川にアメリカの飛行機が何度もドラムカンを落としており、原子爆弾が地面に落ちる前に逃げるといふ訓練をしました。長崎原爆資料館で70年後に見た現物資料とドラムカンが同じものだと感じます。核弾頭やミサイルと名前を変えて、日本の隣国が実験を繰り返していることに恐怖を感じざるを得ません。

今自分史を書いてはまだ最初の1ページにもならないでしょう。逆に現在から近年のことを年齢と共に忘れないうちに箇条書きに記しておきます。

2016年9月 脊椎骨折、階段や段差がない現在の住まいに移転。

福岡市障害者スポーツ大会、車椅子スラローム競技で
3年連続 金賞優勝。

2017年2月 障害者全国写真コンクール 銀賞受賞、東京の美術館展示。

2017年3月 福岡市障害者美術展陶芸部門 金賞受賞、福岡新天町画廊展示。

その他10年間に金、銀、銅等メダルがいつの間にか
30個くらいになりました。



今は愛媛県の国体出場をめざして練習中です。練習場所はフレンドホーム体育館。西公園の山道へ花の写真撮影に行くなど、電動車椅子で毎日が楽しい障害者なのです。

たたらリハビリテーション病院で、この10年間、ガーデニング、園芸ボランティア活動を続けていますが、自分の園芸療法のためにもなっています。今年も来年も、植物達は土をかき分け、芽を伸ばし、花を咲かせます。終わる予定はないのです。

自分史を書くのは、また先延ばしになりそうです。自分の趣味の写真がパソコンの中に約6万枚残っています、写真も自分史として人生の証になるでしょう。

「自分史を書くにはまだ早すぎる」



池永静治

日々患者さんやご家族に寄り添いながら 緩和ケア病棟で働いている看護師を2人紹介します。



● 看護師 / 岡本恵理子

患者さんにご家族の望みを叶えるため、私なりにできること



緩和ケアを志して約9年。いつまでも慣れることはなく、どう対応したらよいか悩み、「果たしてこれが良かったのか?」「もっとこうしたほうが良かったのかもかもしれない」などと葛藤する日々を過ごしています。

そんな私が、他のスタッフよりひとつだけ誇れることは、5年前にNST(栄養サポートチーム)専門療法士の資格を取得したことです。この資格を取るために栄養に関する様々な勉強をしてきました。今はまだあまりその資格を生かしてはいないのですが、「食事=生きること」と考えている方や、食事の事で悩んでいる方の力になりたいと思っています。食べることがつらいと感じている方も多いため、緩和ケアとしての「食べること」の意義を伝え、その方に合った食事内容、栄養療法を提案し行っていくことが私の目標です。

趣味は宝塚歌劇、フィギュアスケートやドラマを観ることです。いつも多くの刺激と感動を得てリフレッシュをしています。まだまだ知識と技術不足で足りないことばかりですが、常に向上心と前向きな気持ちを持ち続けながら、いろんな方々の気持ちに少しでも寄り添っていけるよう、スタッフ皆で協力しながら日々の看護を行っていきたいと思っています。

患者さんやご家族に「ここに来てよかった」と思っただけ、穏やかな時間が過ごせるように……その望みを叶えるために、日々思いを新たにしています。



大切にしているぬいぐるみと、
患者さんのお孫さんが
作ってくれた私の紙人形です。

● 看護師 / 酒井俊子

「そのひとらしく」に寄り添いながら



2014年より緩和ケア病棟に勤務しはじめて2年半になります。病棟では楽しい行事が催されたり、患者さんからいろいろなお話を聞かせていただいたり、リハビリなどの他職種との関わりも多く、毎日楽しく勤務させていただいています。

患者さんそれぞれの人生に、自分や家族の生き方を深く見つめ直す機会も与えてもらっていると感じます。

私には、高校3年、中学2年になる二人の息子がいますが、最近は私のドジなところに子ども達からつつこみが入ることも増えてきました。一緒に走っても追いつけなくなり、子ども達の成長をうれしく感じたり、私自身は成長できていないような気がして少し残念な気持ちになったり、複雑な心境になることがある今日この頃です。



仕事でも、まだまだ勉強不足を実感したり、こうすればよかったかな、と反省したりする毎日ですが、患者さんやご家族の笑顔やほっとした表情・ことばが私の心の支えとなっているように思います。

「そのひとらしく」という病棟のモットーに沿えるように、患者さんやご家族が穏やかな毎日が過ごせるようお手伝いさせていただきたいと思っています。そして自分自身も成長できるようにいつも前向きな気持ちで頑張っていきます。

こんな私ですが、皆さまどうぞよろしくお願いたします。